

中野 寛之 議員



(一問一答方式)

- ①子育て世帯の負担軽減
- ②猫の適正飼育
- ③読み易く認識しやすいフォントの導入
- ④新型コロナウイルスワクチン乳幼児・小児接種
- ⑤大洲市立図書館のコロナ対応

子育て世帯の負担軽減について

問 自家用車保有率が高い子育て世帯への支援策として、チャイルドシート貸出などの制度を調査研究するべきと思うがいかがか。

答 チャイルドシート貸出は、大洲交通安全協会が行っており、県内の交通安全協会に入会していれば、予約のうえ、乳児用と幼児用の2種類のチャイルドシートを最長14日間借りることが可能です。

他市の事例では、保育所で新生児用・乳児用・幼児用の3種類を貸出している自治体もあり、貸出期間は1回につき1週間程度、対象者は里帰りや出産時など一時的に必要な方となっています。

使わなくなったチャイルドシートの譲り合いなどができない方の負担を考えると、子育てをみんなで支え合い、助け合う仕組みづくりが必要です。物を大切にすることやリユース品の活用は、SDGsのごみ減量にもつながります。資源の有効活用の観点からも、他市の取組事例等の調査研究を進め、子育て世帯の負担軽減が図れるよう、ニーズに沿った支援の仕組みを検討します。

猫の適正飼育について

問 改正動物愛護管理法で求められる猫の適正飼育について啓発が必要ではないか。

答 動物の愛護及び管理に関する法律は、動物の虐待や遺棄の防止、動物による人の生命、身体及び財産に対する侵害や生活環境の保全上の支障を防止する目的で定められ、飼い主には適正飼育に関する責任と義務が課せられています。

しかしながら、飼い主の身勝手な都合から飼育を放棄し、鳴き声やふん尿等による被害や近隣とのト

ラブルへと発展するとともに、哀れんでの無責任な餌やりがトラブルを助長している現状です。

そのため、昨年度から積極的に猫の保護活動に取り組んでいる団体等と協力し、市役所1階ロビーで猫の愛護と適正飼育のパネル展の開催や、猫の譲渡会の後援を行っており、今後も、動物を遺棄する、世話を怠ることは犯罪ということを認識していただくとともに、飼い主のいない猫へのマナーについて、広報紙や市ホームページで啓発に努めます。

新型コロナウイルスワクチン乳幼児・小児接種について

問 乳幼児がワクチン接種の対象となったが対応状況は。また、接種の努力義務が付与されたことの啓発や、副反応の状況報告はどう考えているか。

答 乳幼児の対応状況は、11月18日に接種対象者約1,100人の方へ、ワクチンの効果や安全性等をお知らせするリーフレットと説明書を同封した案内文書を発送しています。希望する場合は、接種券の発行をWebまたは電話で申請することとなっており、申請件数は12月1日現在で30件です。

接種においては、有効性や安全性の丁寧な説明や子供の体調への対応が必要となるため、健康状態を把握している「かかりつけ医」で接種できるよう、市内の小児科診療所3施設で個別接種により実施することとし、11月29日から接種を開始しています。

乳幼児及び小児接種の啓発活動については、乳幼児接種は開始当初から、小児接種は9月6日から努力義務が適用され、国や日本小児科学会も接種を推進していますが、あくまで強制ではなく、本人と保護者の判断とされています。接種の普及には保護者の不安や戸惑いを払拭できる啓発が大切で、国等が公表する情報や副反応の状況などの情報収集と発信に努めるとともに、本市での副反応の発生状況についても分析を行い、市ホームページ等で公表する考えです。

